

地域の歴史を活かした リスクコミュニケーション手法の提案

田中 尚人¹・野呂 有佳子²・藤見 俊夫³・柿本 治⁴

¹熊本大学准教授 大学院自然科学研究科 (〒860-8555 熊本市 髪 2-39-1)
E-mail: naotot@kumamoto-u.ac.jp

²玉野総合コンサルタント(株) まちづくり推進部 (461-0005 名古屋市東区東桜 2-17-14)
E-mail: noro-yk@tamano.co.jp

³熊本大学助教 大学院自然科学研究科 (〒860-8555 熊本市 髪 2-39-1)
E-mail: fujimi@gpo.kumamoto-u.ac.jp

⁴熊本大学准教授 政策創造研究教育センター (〒860-8555 熊本市 髪 2-39-1)
E-mail: kakimoto@gpo.kumamoto-u.ac.jp

景観法制定以来、地域の歴史と文化に根ざした、地域住民を主体とした景観形成が望まれている。一方、地域防災においては、自助・共助・公助のあり方の見直しや、地域住民の自主防災活動に対する期待が高まっている。本研究では、地域の歴史を活かした防災文化を育むことを目的として、リスクコミュニケーション手法を提案する。具体的には、坪井川が流れる熊本市中心部の壺川小学校校区を対象とした地域防災計画にするものである、まず、本研究における地域の歴史の定義を行い、土木史的調査に基づいた歴史的環境情報を取り入れた防災マップを作成した。次に、これを用いて対象地において自主防災組織を通じた防災まち歩きを行った。

キーワード：地域防災力，景観，歴史，防災文化